（別紙2）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2570500377		
法人名	特定非営利活動法人NPOふくし永源寺		
事業所名	グループホームやすらぎの里永源寺		
所在地	滋賀県東近江市山上町5045番地		
自己評価作成日	令和3年　5月5　日	評価結果市町村受理日	令和3年　6月17　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇432番地　平和堂和邇店　2階
訪問調査日	令和3年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム周辺は、豊かな田園風景が広がり、フロアーからは、四季折々にその色彩を変え季節感を感じる事が出来る。日の出から夕暮れへと変わる景色を眺め実感を伴って過ごして頂いている。コロナ禍であっても、やすらぎ農園での四季折々の収穫作業に出かけ実りを手にする喜びを感じて頂いただいています。外部との接触が殆ど出来ない状況ではありますが、天気の良い日は散歩や日光浴をして頂きい気分転換をしていただいています。ホーム内でも個々の持っている残存能力を活かし、職員との関わりを持ちながら、手仕事や掃除、食事の支度、あとかたずけなど一人一人出来る事をして頂き、明るい表情が見られるよう心のケアにも努めている。。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、永源寺の山並みと田園風景に囲まれた自然豊かな地域にあり、同じ法人が運営する他のグループホームとディサービスが併設されている。近くには、ホーム専用の「やすらぎ農園」があり、四季折々の実りを体験でき、収穫物は事業所の食材として利用して食べる喜びにも繋がっている。現在コロナ禍での3蜜を避ける屋外活動として散歩などを行って生活リハビリになっている。利用者家族からは、新型コロナウィルスがまだまだ収束しない中、集団感染も出さず日々生活が出来ている事に感謝されている。家族面会が中断されている現状から、出来るだけ利用者の近況がわかる写真を多く撮影して家族に安心していただく工夫をしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内数カ所に、理念を掲示し、日頃からいつでも目に入るようにしている為、その都度意識付けができる環境にあり実践に努めている。	「ホッとやすらげるここちよい暮らしを支える」を基本理念として、事業所に隣接した「やすらぎ農園」での農作物の栽培を職員と一緒に作業し、収穫物を食材にして料理を楽しみ日々の会話に使うなど理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度から、コロナ禍により地域の活動やボランティア、老人会、小学校との交流が出来ない状況が続いている。日赤奉仕団の方々には、外から清掃作業に携わって頂いている。広報などでは、活動内容を記載し配布している。	地域とのつながりを深めるため広報誌「やすらぎの里」を年2回発行し事業所の活動内容を紹介する事により、利用者の元気な笑顔がコロナ禍の中で地域生活に安心を届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンに参加できない状況ではありますが、運営推進会議（書面会議）や広報紙を通して認知症について理解を深めて頂けるよう務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はやすらぎの里けやきと隔月に開催している。5月は、開催し7月からは書面会議とさtせて頂いた。活動報告や近況報告をしている。委員の皆様からたくさんのご意見と感想を頂き、支援向上に結び付けている。職員に議事録を確認して頂き、意識向上につなげている。	運営推進会議は、6回中5回が書面会議となったが、書面会議資料に事業所の活動報告、コロナ禍における感染対策報告、今後の予定を掲載し委員からの意見を記入する「回答用紙」を同封している。後日意見、感想と質問に対する回答を委員に伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の行事や運営推進委員会に支所の担当者に参加していただき、日頃から困りごとや相談事があれば助言を頂いている。今年はコロナ感染対策や高齢者ワクチン接種についての相談にも助言して頂き密に行っていた。	市福祉総合支援課及び、市支所を窓口として、感染症対策及び高齢者ワクチン接種時期に関する相談に助言を得ている。コロナ禍により認知症の講演、講習会は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員会議や外部研修に参加し、職員会議でマニュアルなど用いたり、事例をあげ会議でグループワーク形式で勉強会をしている。	虐待防止推進委員会(名称変更)を設置している。職員は年間研修チェックリストにより計画的に研修を受講している。受講者は受講後職員会議の場で研修内容を報告し周知伝達をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々のケアで問題点を職員会議で話し合い、気付いた事をあげ防止に努めている。経営者は虐待防止関連についての意識が高いため現場にその考えが浸透している。職員が学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修等に参加している。 わからない時は、市職員に相談に行き活用できるように努めている。制度を利用されている利用様がおられる為成年後見制度の存在や理解の意識を職員が持てるようになり、勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重度化のリスクや対応、退去理由についても説明を行い、了承を得ている。また、状態の変化により契約解除に至る場合もその後の対応を含め、家族様と相談の場を設け納得、了承を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、面会規制が続いており、来訪時や電話対応になり意見交換や思いをくみ取るようにしている。職員全員で共有している。運営推進会議等の機会に報告を行っている。	来訪時や電話対応により意見交換や思いを汲み取っている。本年度新たな取り組みとして家族とLINEによるビデオ電話の取組にチャレンジしたが使用実績までは至っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議で運営に関する報告を行ったり、業務内容の改善についての意見交換の機会を設けている。日頃から、話しやすい雰囲気に努め、小さなことでも取り上げ反映するよう努めている。又職員の会話から意見を聞くようにし反映させている。	コロナ禍のため利用者と家族の面談を中断しているが、職員会議の提案で事業所での利用者の元気な姿をできるだけ多く家族に見てもらうよう玄関のコルクボード板2枚に利用者写真を掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を常に把握するように心掛け、職場が働きやすい環境であることに常に働きかけ意見が反映するよう心掛けている。 適材適所でやりがいを持って頂けるように、個々に業務を担当して配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で研修参加の機会を設けている各職員にあった資格が修得出来るように支援を行っている。新職員に関しては、一定期間の勉強会実施し、ケアについて丁寧な指導に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や事例検討研修会に参加している。他の事業所の取り組みや報告を取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の生活歴や、今後の不安要素をしっかり聞き取り、ご本人の意思を尊重するよう努めている。本人に関する情報を共有し、尊重しながら雰囲気に慣れて頂くよう関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、見学の際に不安や困りごとを聞き取り、談話時に、家族の苦労や、思いをしっかりと聞くように努めている。ご家族が求めているものを理解し、事業所では、どのような事に対応できるのかを話し合いながら、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時や、契約、面接時にお話を伺い、本人の困りごとなど把握し家族の思いも理解するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動や感動を共有することで、思いを理解するよう努めている。人生の先輩として接し知識を教えてもらっている。日常の家事作業を利用者と職員共同で行い、お互いに助け合い暮らしを共にする関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へまめに連絡、相談し本人・家族の意向を大切にしている。認定調査や特別な受診には家族に立ち会っていただくなど、協力をして頂いている。普段の様子が分かるように1ヶ月の様子や活動に様子が分かるように写真を送っている。お互いに助け合い暮らしを共に支える関係づくりを行っている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナ感染の終息がみられない為、面会、人込みへの外出、家族とのお出かけは禁止させて頂いている。 利用者様が語る馴染みに人や地元の話などご家族の話など傾聴し、日々の会話のなかで思い出して頂けるように話題にするようにしている。	馴染みの人との関係継続には、コロナ禍の中で苦慮しているが、来所された方には、玄関に掲示している利用者写真により近況報告すると共に利用者への手紙をことずかっている。なお、訪問美容は継続している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの身体状況に合わせ出来ることをして頂きながら、職員が会話や橋渡しをし利用者同士が一緒に協力できる関係作りに努めており、利用者様同士挨拶や助け合うとされる姿も見られるので実践できていると思われる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も行事等に参加して頂くよう声掛けさせて頂いています。場合によっては、フォローや相談などの支援を行っています。他の施設へ移られる場合には、本人状況や支援情報を詳しく伝えてご本人がスムーズに入所できるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで、本人の発する言葉や行動、態度をケース記録、日誌等に記載し、職員同士が内容を把握している。また家族からの情報や意見も参考にし、思いや希望をくみ取り利用者本位のケアに努めている。	利用者の意見は、職員と2人となるお風呂やトイレの利用時によく聞くことができ、思いや希望を聞き取り職員間で情報を共有するよう務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からこれまでの暮らしぶりや、生活歴、趣味など過去の情報を収集し、本人の理解に努めている。これまでのサービス利用の経過や情報も関係者から聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りケアを重視し、個々の動静や言動、気分変化を観察し、心身の状態や能力の把握に努めている。これらの情報を各記録に記載し、職員会議で共有する事で、ケアに反映させている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活歴や、本人やご家族から、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き作成するように努めている。状態変化や日々のケアの中での気づきなど職員会議等で、意見交換し、モニタリングを行いプランに反映しています。 統一したケアが行えるようサービス計画を作成していますケアプランは、家族の承認を得ています。	ケアマネージャーは、3ケ月毎に、日々のモニタリング結果や、かかりつけ医及び協力医の受診動向、家族の意向等を参考にして介護計画を作成している。グループホームサービス計画書には、家族の署名及び承認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のエピソード、言動や身体の状況、一日の活動や変化があれば、ケース記録や介護記録等個別に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、受診や理髪サービス、外出（花見、桜、菜の花、牡丹など）職員間で話し合い柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部との接触ができない状況が続いていますが、獅子舞や市の主催の花火を鑑賞して頂き楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、受診経過や今後の通院に関して家族と話合い希望の医療機関へ通院して頂いている。定期健診以外にも必要に応じて随時受診を行っている。ご家族が付き添われる場合連携シートに記載し医師に様子をお伝えしている。	従来からのかかりつけ医受診は3名の利用者がおり、医療連携シートにより医師との情報共有している。受診には家族が同行している。利用者は、定期健診を月1回協力医の診断を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらっている。普段から利用者の体調や様子の変化に気づけるように、見守りケアに取り組んでいる。異変があれば、直ちに協力医に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院目的を早く達成してもらえるように、協力医や家族と話合い連携している。サマリー等を医療機関に提供している。入院期間中は、地域連携室相談員や担当看護師、家族と回復状況等情報交換し、早い退院に繋げるようにへの支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所での介護方針や目的、体制など契約書に記載されている内容をわかりやすく説明し、重度化や終末期は、相応の施設や病院への連携を行うことを理解、納得して頂いている。入所後も体調変化に合わせてご家族や関係者と話合いを行っている。	重度化や終末期に向けた対応について重要事項説明書に明記、重度化に向けての協議内容は、別紙で会議出席者、報告、検討内容、家族の意向、結果の各項目を記載して家族の署名捺印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を行い、心肺蘇生、骨折、止血、喉詰まりの対処方法を学んでいる。協力医には、夜間を問わず連絡を取れるようにしている。緊急時対応マニュアルがスッタフルームの目に付く所に貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全室にスプリンクラーを設置し、年1回消火設備点検、立ち入り調査がある。年2回の消防避難訓練の実施、避難経路の確認、水消火器を使用し使い方などの訓練を行っている。防災、減災マニュアルを作成している。	年2回の消防訓練は、7月と11月に実施しいずれも昼間を想定した火災訓練となってる。コロナ禍の中での訓練となって地域住民の参加はなかった。	昨年、青野町の防災活動支援依頼書が承認され事業所の防災に関する指導助言を受けることができ、今後夜間を想定した避難訓練を取り入れるなどの取組に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のノック、トイレ時のドアの開閉時に声かけを徹底している。表情や行動などから、気持ちを汲み取りさりげない誘導や対応を心掛けている。対応の前には、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	職員は人権に関する外部研修を受け、職員会議で伝達研修を行うなど全員で理解を深めている。利用者に対し、常に尊敬の念を持ち丁寧な言葉がけで接している。管理者は職員の対応に注意を払いケアの統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすい雰囲気作りや、関わり方を心がけている、日課等は複数の選択肢から選んで頂いている。作業等は、希望を伺い提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日など一応の決まりはあるが、一日の流れの中で、個々の能力にや体調・ペースに合わせ暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶときは、毎回同じ服にならないように一緒に選んだりすることを心掛けている。また衣替えの季節には家族に来てもらい季節に合った衣類を用意していただいている。定期的に地域の理髪店を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫から食事後の後片付け、洗濯物のたたみまで利用者と一緒に行っている。畑で一緒に収穫した旬の食材を使ったり、行事には、特別感のあるメニューを用意するなどしている。また利用者と一緒に食事をし食への関わりを楽しみにして頂くよう支援につなげている。	利用者の希望も取り入れ、毎食事業所で調理している。畑で収穫した野菜も使って下処理から利用者もできることを行い、職員と一緒に会話を楽しみ食事をしている。季節の行事や誕生日会には、寿司やデザートなど特別メニューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスを見てもらっている。持病がある場合には、水分量や体重の増減、食事料などチェックし、主治医や管理栄養士の指示を仰ぎながら個別に食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝時前に、自分で出来る方は、声かけ見守りで、うがいや義歯洗浄を行っている。出来ない方には、気持ちに配慮しながら、歯磨きの手伝いをしたり、義歯洗浄を行っている。毎週月・木曜日には義歯洗浄剤を使用し清潔に保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録をとり、排泄パターンの把握に努めている。また行動や表情のサインを見逃さないようにし、さりげない誘導を行い、状態に応じた介助を行っている。その際には、プライバシーや羞恥心には配慮するよう心がげています。尿量や排便の有無など職員間で申し送りを行っています。	1人ひとりの排泄パターンや状態を見極め、声掛けや見守りでトイレでの排泄につなげている。失敗やトラブルには、さりげなく目立たない援助を心掛けている。布パンツは1名、他はリハビリパンツにパットを使用、夜間は睡眠重視のため、大きめのパットに替えて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑仕事や散歩、体操などを行い、食事には乳製品や食物繊維を取り入れるようにして便秘対策に取り組んでいる。水分摂取の大切さを職員と利用者ともに認識をして、お茶を活動の合間に飲んでもらっている。又便秘気味の方は、主治医に相談し便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本としている。順番や入浴時間は、本人の状態や希望に沿うように配慮するなどしている。また柚子、牡丹などを使い季節感を楽しめる入浴を行っている。入浴の拒否のある方は、声掛けの工夫を行っている。	一日おきの午後を基本に入浴している。個々の希望や状態に応じ柔軟に対応している。庭に咲く花や果実を湯舟に浮かべ季節を楽しむ工夫をしている。1対1で会話を楽しみ、普段表に出せない利用者の気持ちを知るいい機会と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夕方は穏やかに過ごせる生活リズムを保ち安眠に繋がるように心掛けている。冷暖房を用いて室温調整に努めている。夜間頻尿や寝つきの悪い方は家族や医師と相談し、薬剤の調整をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬情は、すぐに閲覧できる場所に保管している。各利用者別に小分けBOXに入れて保管しています。セット時は、2重、3重のチェックを行っている。服薬時は、利用者に手渡し飲んで頂いている。確実に服薬出来るよう見守っている。処方の変更があった場合は、受診記録を確認し職員全体で経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、野菜の収穫、花いじり、裁縫、調理、掃除機掛け、家事全般を日常生活に取り込んで、充実感を感じて頂けるよう言葉がけの工夫をし、張り合いを持ってもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、外出は控えさせていただいている。畑やお花見、ドライブなどで気分転換をおこなっている。	天気の良い日は、出来るだけ庭先に出て日向ぼっこや事業所まわりの散歩をしている。畑での収穫や、季節の花見、散髪などに、分散して車で出かけている。同じ敷地続きの事業所の利用者と、行き来して交流をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームに現金を持ち込みを遠慮して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人からの便りに対して返事を書いていただけるよう支援している。利用者の要望によっては、家族の了解を得て電話もかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく開放的かつ採光も良い為、カーテンを開放し自然の光や景色から時間や季節を体感していただいている。冷暖房や加湿器を用いて湿度、温度を調整している。食堂では、音楽を聴きながら過ごして頂いている。朝と4時（換気時）掃除機掛け、拭き掃除及び消毒を徹底している。夜勤者が食堂のイスなど消毒を行っている。	居間兼食堂は床暖房が備わり、広く大きな窓からの彩光で明るい雰囲気だが、和室も併設されており、落ち着いた空間になっている。窓からは庭先の草花や木々とともに周辺の田園風景や遠くの山並みが望める。各居室につながる廊下には手すりが設置され、トイレ、浴室など清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や日当たりのよい廊下にイスが置いてあり、を眺めながら、数人の会話の場となっている。日光浴を楽しまれている。思い思いに過ごせる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や備品を持ち込み思い出の家族の写真を飾るなどしている。思い出の品について傾聴するなどして居室でくつろいで頂ける工夫をしている。利用者と職員が協力し清潔を心掛けている。	居室は押し入れ付きの洋室で、十分な広さと大きな窓があり明るい。それぞれ使い慣れた家具や、家族写真、お気に入りの小物などを置いている。職員とともに利用者も部屋の掃除をして、すっきりと片付いている。換気もまめに行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内や居室の名前を見え易い位置に表示している。利用者が日常的に使う物は混乱しないように所定の場所に表示して置いている。自立した生活が送って頂けるよう工夫している。		

事業所名グループホームやすらぎの里永源寺

作成日： 令和 3年 6月 2日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	昨年、青野町の防災活動支援依頼書が承認され事業所の防災に関する指導助言を受けることができ、今後夜間を想定した避難訓練を取り入れるなどの取組に期待したい。	年2回ある避難訓練のうち1回は夜間を想定した避難訓練を実地する。	法人全体で取り組んでいく課題のため、経営会議で話し合い夜間マニュアルや連絡網など再確認を行う必要がある。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。